船舶事故等調査報告書（軽微）

１　船舶事故	計	82 件
２　船舶インシデント	計	13 件
	合　　計	95 件

平成２２年5月２８日

運 輸 安 全 委 員 会

船舶事故等調査報告書（軽微）一覧

（函館事務所）

1　漁船第八十一久榮丸運航不能（機関損傷）

2　漁船第五十八英宝丸運航不能（機関損傷）

３　遊漁船第三十二大吉丸モーターボートKURO衝突

4　漁船成田丸運航不能（機関損傷）

（仙台事務所）

５　漁船第八丸福丸モーターボート第五たか丸衝突

６　貨物船祥栄丸漁船貴宝丸衝突

７　漁船第３新栄丸漁船勝栄丸衝突

８　漁船拓央丸転覆

（横浜事務所）

９　モーターボート海王丸水上オートバイGP－R衝突

10　貨物船若武丸乗揚

11　ケミカルタンカー三光丸引船光復丸台船若月衝突

12　液体化学薬品ばら積船菱心乗揚

13　水上オートバイ　Ａ５１衝突（水門）

14　水上オートバイ　STX１２００－R水上オートバイ　PEACEⅡウェィクボーダー負傷

15　漁船第一北斗丸運航不能（舵故障）

16　油送船第二十一豊栄丸油送船第二若島丸衝突

17　水上オートバイ鍋秀号水上オートバイＦ・WⅢ衝突

18　モーターボートJUSTICE乗揚

19　警備艇はやま沈没

20　漁船第三林丸乗揚

21　教習艇むさし４２号乗揚

22　教習艇むさし４３号乗揚

23　消防艇はまかぜ衝突（鋼管杭）

24　作業船第七たちばな火災

25　プレジャーヨットシンシア乗揚

（神戸事務所）

26　ケミカルタンカー第１５伸興丸油タンカー第三八辰丸衝突

27　モーターボートチュンチュン運航不能（燃料不足）

28　漁船住吉丸漁船金刀比羅丸衝突

29　水上オートバイYAGIKEN水上オートバイレスキュー搭乗者負傷

30　モーターボートハイドロＥ４０モーターボートミニⅢ１２号衝突

31　貨物船第六十八芳茂丸衝突（岸壁）

32　引船第八協栄丸はしけ双和１１１号運航不能（冷却海水系統空気混入）

33　貨物船第一福徳丸乗揚

34　貨物船第六十八芳茂丸衝突（岸壁）

35　押船大福丸バージN６乗揚

36　漁船信戎壱号丸運航不能（主機空気系統海水混入）

37　有害液体物質ばら積船第壱大昭丸海苔養殖施設損傷

38　押船大開２号衝突（岸壁）

39　貨物船祥輝丸衝突（灯浮標）

※下線付き番号はインシデント

40　貨物船第八昭和丸乗揚
41　交通船第八ふじ快遊船巧誠衝突
42　液体化学薬品ばら積船第八東亜丸漁船生光丸衝突
43　引船とかちバージ神－５５００衝突（岸壁）
44　油タンカーさんこう６８衝突（観測システム塔）
45　貨物船 SIBOR 海苔養殖施設損傷
46　貨物船冨士岩丸乗揚
47　砂利運搬船第五住福丸乗揚

（広島事務所）

48　引船開洋台船 D－３０５漁船幸吉丸衝突
49　貨物船 SHINKEN ACE 衝突（灯浮標）
50　貨物船 WIN LONG 漁船漁華丸衝突
51　引船第十二神峯山丸台船神峯５号かき養殖施設損傷
52　押船第二南城丸はしけ南城２号乗揚
53　貨物船 CHANG AN 漁船龍美丸衝突
54　旅客船しらきさん巡視艇くがかぜ衝突
55　貨物船第八光昌丸乗揚
56　貨物船やさか衝突（陸上クレーン）
57　漁船正福丸漁船第３善栄丸衝突
58　油送船裕鷹丸乗揚
59　押船マリンバージマリン１８乗揚
60　漁船第１８浦郷丸運航不能（機関損傷）
61　貨物船第二トクヤマ漁船繁恵丸衝突
62　貨物船 KEOYOUNG GRACE 漁船忠弘丸衝突
63　漁船第１２浦郷丸運航不能（機関損傷）
64　引船第三十八住吉丸台船 SK１０１乗揚
65　釣船第２新栄丸漁船晶丸衝突
66　油送船第二西本丸運航不能（機関損傷）
67　漁船第８蛭子丸モーターボート貞信丸衝突
68　貨物船善榮丸乗揚

（門司事務所）

69　貨物船第二十六対州丸衝突（防波堤）
70　漁船第十八七海丸浸水
71　漁船第一宝漁丸運航不能（機関損傷）
72　貨物船 MAPLE LEAF25 貨物船さぬき衝突
73　貨物船 RICH STAR 衝突（岸壁）
74　貨物船大祐丸漁船太閤丸衝突
75　液化ガスばら積船第三十七博晴丸漁船 CHAHG YUNHO 衝突
76　漁船良宝丸漁船幸成丸衝突
77　漁船松福丸漁船住吉丸衝突
78　モーターボート金比羅丸乗揚
79　旅客船どりいむ運航不能（絡網）
80　漁船宝新丸乗揚

（長崎事務所）

81　押船第二十八天翔丸クレーン台船八光三号乗揚
82　貨物船三幸丸乗揚
83　旅客フェリーフェリーきずな衝突（岸壁）

※下線付き番号はインシデント

84　漁船一丸モーターボート国洋丸衝突

85　押船第一緑川丸クレーン付作業台船緑川号乗揚

86　旅客船かから丸衝突（防波堤）

87　漁船龍神丸漁船漁洋丸衝突

88　引船赤崎丸乗揚

89　押船第六あおい丸砂採取船第八あをい丸運航不能（舵板脱落）

（那覇事務所）

90　漁船由美丸乗揚

91　漁船福丸乗揚

92　漁船明豊６６号貨物船第１６旭丸衝突

93　油送船 BELAIA 漁船千春丸衝突

94　遊漁船 SEAFIGHTER 乗用車損傷

95　漁船創大乗揚

※下線付き番号はインシデント

船舶事故等調査報告書

平成２２年４月２２日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	２００９門第１２７号
事故等種類	浸水
発生日時	平成２１年５月２３日　２３時３０分ごろ
発生場所	長崎県壱岐市勝本町所在の若宮灯台から真方位２６５°８．５海里付近 （概位　北緯３３°５１．３′東経１２９°３１．１′）
事故等調査の経過	平成２１年８月１３日、本事故の調査を担当する主管調査官（門司事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報	
船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	漁船　第十八七(なな)海(み)丸、１９トン ＮＳ２－１７０４２（漁船登録番号）、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定
死傷者等	なし
損傷	主機のシリンダライナが焼損及び主機始動用発電機等が濡損
事故等の経過	本船は、船長ほか２人が乗り組み、フグの稚魚を積載し、壱岐島の西方沖を航行中、平成２１年５月２３日２３時３０分ごろ、主機の警報ブザーが鳴ったことから船長が機関室に赴いたところ、逆転減速機用潤滑油冷却器の海水入口側保護亜鉛取付けプラグ（以下「本件プラグ」という。）が腐食して脱落し、海水が機関室内に浸入していた。 船長は、主機を停止し、主機の海水取入れ弁を閉鎖して海水の浸入を止めたのち、補助発電機を始動して可搬式電動海水ポンプで排水作業を実施した。 本船は、僚船によってえい航され、長崎県対馬市美津島町大船越でフグの稚魚を水揚げしたのち、本船整備業者が点検した結果、主機等の損傷が判明した。
気象・海象	気象：天気　曇り、風向　西、風速　約7m/s、視界　良好 海象：波高　約２ｍ
その他の事項	主機の運転時間は、月平均３００時間であった。 保護亜鉛は、根元を本件プラグに組付けられており、逆転減速機用潤滑油冷却器内に差し込んで、本件プラグでネジ止めして取り付けるようになっていた。 保護亜鉛取付けプラグは、従前から耐食性の高い真鍮製のものが使用されていたが、平成２０年８月ごろ主機の冷却海水系統の洗浄工事を実施した際、本件施工業者によって鋼製のものに交換されていた。 脱落した本件プラグ及び減速機用潤滑油冷却器ケーシングの本件プラグ取付け孔は、ネジ部が腐食していた。 保護亜鉛の点検は、機関取扱説明書で運転時間が５００時間毎に行うようになっていたが、船長は１年から１年半毎に実施していた。 船長は、発航前の点検で、機関室内の水漏れの有無及びビルジの状態を確認していたが、異常を認めていなかった。

分析	乗組員等の関与	なし
	船体・機関等の関与	あり
	気象・海象の関与	なし
	判明した事項の解析	本船は、逆転減速機用潤滑油冷却器の本件プラグが腐食して脱落したため、同箇所から海水が機関室内に浸入したと認められる。 逆転減速機用潤滑油冷却器の本件プラグは、主機の冷却海水系統の洗浄工事の際、本件施工業者が鋼製のものに取り替えたため、早期に腐食したものと考えられる。 保護亜鉛を適切な時期に点検していれば、保護亜鉛取付けプラグの不具合を早期に発見でき、本事故は防げた可能性があると考えられる。 ビルジ警報装置を装備していれば、本事故は軽減できたものと考えられる。
原因	本事故は、本船が壱岐島の西方沖を航行中、逆転減速機用潤滑油冷却器の本件プラグが腐食して脱落したため、同箇所から海水が機関室内に浸入したことにより発生したと認められる。	
備考	本船は、ビルジ警報装置を装備した。	